

新宮山産ぐるーぷ第2184回

行仙宿巡回整備

◇実施日 6月4日(土)

晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄

2名

5月24日、梶野君は深仙宿へ単独で向かい池郷林道通行止めの看板を撤去した。香精水の確認に行くと、鍋置台が落石で大きく変形し、プラスチック製の蓋も数カ所で割れているのを見つけた。そのため、衝撃に弱いアルミやプラスチックから木材に作り替える構想を立てたようだ。その材料を行仙宿で調達することでお付き合いすることにした。



行仙宿に到着

2名の縦走者が立ち寄る

切り出した板

午前9時に登山口で合流。2〜3日前、湯川君がお母さんを乗せ

てドライブした際、新築した自宅から出た小石やガラを土のう袋に入れて7袋を登山口にデポしてくれていて、この小石なども荷揚げして活用することも本日の作業に含めた。

モノレール終点に7袋を運び上げ、終点上下の段差(下4段、上12段)に敷いたが、あつという間に無くなってしまった。上の3〜4段は敷く小石が足らず、次回に持ち越した。梶野君は電動カンナ、沖崎はチェーンソーを担いで登りだす。



長い2枚は小屋横に

本日の参加者

小石を撒く

21番鉄塔下まで来てバケツに小石を拾い集めて補給路の補修個所に撒いたが、太平洋に小便した位にしかならず、一人、二人では全く先が見えない。10人位の参加者があるときに数回重ねる必要がありそうだ。機械ではできない場所なので、地道にコツコツと少しずつの積み重ねが大切で、それを着実に行うことが重要だ。

小屋到着後から梶野君は丸太を縦引きして板つくり、沖崎は小屋の内外をチェックし整理。小屋に着いて10分位後に逆峰の登山者2

名が立ち寄る。15分ほど話をして笠捨山に向かった。その後は薪造りやストーブの灰掃除など、昼食を挟んで行う。

発電機が始動せず電気カンナが使えなかったため、切りだした板は小さい2枚を持ち降ろし、長いものは小屋横に置いた。

大型連休以後、行仙宿と持経宿のトイレ利用者に利用料をお願いする志納箱を取り付けた。

下山時、鉄塔下から補給路補修個所まで2往復して小石を撒いた。これまでに土のう袋で10袋ほどを撒いたことになるが、4m位の距離しか完了していない。

たが詳細は判らなかった。

(記；沖崎)

行動タイム

09：00 補給路登山口↓10：34 行仙宿 14：00↓14：12 21番鉄塔↓
15：11 補給路登山口



ロープが巻かれていた

皮剥の跡

修理されていたゲート

モノレール脇の間伐した杉林は、動物による皮剥があり、被害除けと思われるロープがたくさん巻かれていた。

白谷・池郷両林道の補修工事が開始されるが、詳しい工事期日や工事内容が判らず、ゲート付近になにかの看板があるのではないかと、沖崎が白谷林道ゲート、梶野君が池郷林道ゲートを偵察に行つ